

第4章

参考事例

＊就学前の読書活動

＊小・中・高等・特別支援学校の授業活用例

＊市町村の学校図書館支援



絵具遊びを楽しもう！

【活動日】 7 月

ねらい

- 仕掛け絵本に興味をもって見る。
- 絵具の感触遊びやスタンプ遊びを楽しむ。

活動内容

園児の様子・ワークシート等

○絵本の世界を楽しもう！

- ・「おおきなおおきな きいろいひまわり」の絵本を読み、ひまわりはどんな花なのか知る。



○ひまわりにタッチ！

- ・ひまわりにタッチすることで、手をパーに広げる。
- ・これから活動する絵具遊びへのイメージを膨らませる。



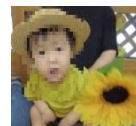
○絵具遊びを楽しもう！

- ・花は手形をとる。「ペッタンペッタン」と言いながら絵具の感触を楽しむ。
- ・種になるところは気泡緩衝材を使ってスタンプ遊びをする。



絵本の読み聞かせ

★ページをめくっていくと、最後は大きなひまわりになる仕掛け絵本になっているので、わくわく感があり、楽しみながら見ていた。



絵具遊び

★手形は自分から絵具に触れようとする子もいれば、感触にびっくりして涙が出る子もいた。

★スタンプ遊びは繰り返しスタンプすることを喜んでいた。

☆指導のポイント

- 0歳児に読み聞かせする絵本は、色や形を楽しめる絵が大切だと思う。赤ちゃんの想像力を大きく広げられるものを選ぶ必要がある。
- スタンプは、握る力が弱い子は、保育者が援助しながら楽しむ。



資料

「おおきなおおきな きいろい ひまわり めくってひろがる」

フランスス・バリー/さく、たにゆき/やく

大日本絵画

可愛いおばけちゃんをつくろう！

【活動日】7月

ねらい

- おばけなんてないさの絵本を見たり、歌を歌ったりすることを楽しむ。
- おばけ作りの製作を楽しむ。

活動内容

○毎日、朝の会で“おばけなんてないさ”の歌を身振りを付けながら歌うことを楽しんでいる。

○日々の保育の中で『おばけなんてないさ』や『おばけのばあ』の絵本を読み、“こわいけど見たい”気持ちが出始めて、繰り返し読んでもらうことを楽しんでいる。

●製作をして“ぼく・わたしのおばけ”を作ろう！

①事前に好きな色の絵の具を選んで手形をとり、形に合わせて切っておく。（自分の手形をおばけの手にする）

②おばけの形の台紙に目のシール、口、事前にとっておいた手形を好きな場所に貼り、おばけを作る。

部屋に飾り、翌日から飾ってあるおばけちゃん達を見ながら、喜んで“おばけなんてないさ”を歌って楽しむ姿が見られた。

園児の様子・ワークシート等

・絵本で何度も見ていたので、興味をもって製作を始められた。

・初めから台紙がおばけの形をしていたので子ども達もイメージしやすかった様子。

・目や口、手の位置がいろいろなおばけができ、でもどれもおばけになっていて満足そうな子ども達だった。



☆指導のポイント

・おばけなので顔（必ず目の下に口がくる等）にならなくても良い。自分で決めた好きなところに貼ることが楽しめるようにする。

・できたらその場ですぐ部屋に飾り、並んだおばけ達を見て満足感を得たり、友達作品も見て「かわいいのができたね」と話がし合えるようにする。

資料

- ・「おばけなんてないさ」 せなけいこ/絵 ポプラ社
- ・「おばけのばあ」 せなけいこ/さく・え KADOKAWA

カレーの具材を切ってみよう！！

【活動日】1 月

ねらい

- みんなで切った具材でカレーが出来上がる達成感を味わう。
- はさみの扱い方を正しく理解する。

活動内容…はさみの一回切りを経験する

- ① 毎日 2.3 冊ほど絵本や紙芝居の読み聞かせをしている。その中で絵本「わにわにの大きが」を繰り返し読み、はさみを正しく扱う大切さを知る。
- ② 絵本「ぐるぐるカレー」を読むと、具材を切る真似やぐるぐると混ぜる動作を楽しむ姿が見られる。



- ③ 具材に見立てた幅 1.5 cm の画用紙を、ハサミを用いて 1 度切りする。



- ④ 切った画用紙を、鍋の中の具材の上に色別に分類して糊付けする。



園児の様子・ワークシート等

- ① わにわにがはさみで怪我をしてしまう姿をみて「痛いねえ」「血が出てる」と言い、扱い方によっては危険なものであることに気付いた。
- ② 手遊び「カレーライスのうた」を口ずさみながら切り貼りを楽しむ姿が見られた。

☆指導のポイント

- ◆ カレーのどの具材を切りたいか、楽しみながら自分で選択できるよう素材を用意し声かけをする。



- ◆ みんなで作った喜びが味わえるよう一緒に喜び、言葉をかけ、絵本のように完成したカレーで切る真似をしてみたりみんなでぐるぐるかき混ぜてみたりして何度も楽しむ。

資料

- ・「ぐるぐるカレー」矢野アケミ/作 アリス館
- ・「わにわにのおおけが」小風さち/ぶん、山口マオ/え 福音館書店

野菜スタンプで遊ぼう！

【活動日】8月

ねらい

- 収穫した夏野菜の形や感触に興味を持つ。
- 自分なりにイメージしながらスタンプ遊びを楽しむ。

活動内容

- ① 事前に夏野菜を収穫し、子ども達がスタンプ用の野菜を選ぶ。
- ② 絵本『やさいぺたぺたかくれんぼ』の読み聞かせをする。
- ③ 子ども達の前で野菜を切り、中身を観察する。



- ④ 異年齢ペアで野菜スタンプをして楽しむ。
・イメージが膨らむように、途中で絵本を読み返したり、友達の手伝いしている所を知らせたりする。



- ⑤ 完成した作品は、各部屋に飾る。



園児の様子・ワークシート等

- ・スタンプ遊びに期待しながら、野菜の収穫を楽しんでいた。
- ・野菜の中身を見て、「わ～すごい！」「ほしの形だ！」と驚いたり、発見したりする姿が見られた。
- ・年上の子どもが、年下の友達にスタンプの押し方を優しく教えていた。
- ・片付けの時間になっても、「まだやりたい」という子ども達の声がたくさん聞かれたので、午後からも続きをして楽しんだ。

☆指導のポイント

- ◆子ども達が育てた野菜を使うことで、スタンプ遊びへの興味・関心が高まるようにした。
- ◆製作前に野菜スタンプの絵本を見ることで、子ども達のイメージが膨らむようにした。

資料

・「やさいぺたぺたかくれんぼ」 松田奈那子/作 アリス館

絵本に関する環境構成の工夫

ねらい

○保育室の絵本に関する環境を整えることで、子どもが絵本に触れる機会を増やし、好きな本を増やすきっかけづくりに活かす。

◆環境整備◆ Before After

【0 歳児】

Before



おもちゃと一緒に絵本を入れていた。

After



ウォールポケットに入れると表紙が見え、取り出しやすくなった。



ウォールポケットの上部に「いないいないばあ」を自分で楽しめるようにしたことで、より絵本に親しむ姿が見られた。



【1 歳児】

Before



絵本の表紙は見えなかった。

After



絵本の表紙が見えるようにしたり、絵本のページを子どもの目線に入るように壁に貼ったりすると、自分で絵本棚から選び「よんで」と持ってくるが増えた。



【2 歳児】

Before



持ち運びできる絵本箱

After



子どもが片付ける時、ブックスタンドの段差に絵本が引っかかり、うまくできない子がいるので、ブックスタンドの取り付け位置を変えた。



集団での読み聞かせでは、保育者が集中できない子どもの側で安心できるようにしたり、どの子からも絵本が見えているかを確認し、ベンチを用意していた。

◆取組の成果◆

【0 歳児】よく手に取って遊べる半面、下に落ちていたり、噛んで絵本がボロボロになってしまう。危なくないよう気づいたら、片付けていくようにしたり、噛もうとした時、絵本を一緒に楽しめるようにしていった。

【1 歳児】絵本を取り出して見ることは増えた。

【2 歳児】コロナ感染症対策の一つとして絵本棚の絵本を毎日入れ替えていた。子どもたちにとっては、より興味をもって絵本を探したり、好きな絵本が増えたりするきっかけとなった。

月刊絵本の1か月読み

ねらい

○月刊絵本を読み続ける意義を職員が再確認し、子どもの姿や家庭での様子を記録することで、子どもが絵本に親しむきっかけを作る。

◆取組に至った経緯

乳幼児が何度も同じ行動を繰り返し楽しむことがあるが、子どもは同じことを繰り返すのが大好きで、これは絵本も例外ではない。同じ絵本を繰り返し読むことは、繰り返しが好きな子どもを満足させると同時に、言葉の発達にも重要な役割をはたすと言われている。

また、月刊絵本は1年に12冊、異なるテーマの絵本が届き大人の先入観が加わらず、子どもの興味の幅を広げるのではないかと思います。

◆保護者アンケート結果

Q. 月刊絵本をどのように利用していますか。

A. 持ち帰った日に親子で見ようとしている。

A. 園で読み聞かせをしてもらっているので、先読みしてストーリーを教えてくれる日もある。

A. 話が短く読みやすいので、時間がない時に読んでいる。

A. 前のものでも、今でも一緒に読んだり、覚えているようで、家族に読んでくれることもあ

◆取組の様子



どん!

こどものとも0・1・2 2021.04

「たいこどん」 福音館書店

絵本を読むと「どん!」と言う。それが楽しいようで、読み終わると絵本を保育者に渡し、もう1回読むと再び楽しそうに見る。



絵本に興味津々!!
手を伸ばして見ている。



数人で大好きな絵本を一緒に



お膝の上で安心して



◆取組の成果

○どの年齢も共通してくり返し読み聞かせをしていくことで、その絵本を好きになり、興味をもつようになった。月刊絵本は「みんなと同じであって、なおかつ自分だけの絵本」であり、自分の名前が書かれた絵本は特別である。2歳児の読み聞かせは「今日は〇〇ちゃんの絵本を読むね」と伝え、一か月間子どもの絵本を交代で読み聞かせていくので、読んでもらう喜びと自分の絵本はいつかなと期待する気持ちもあり、集中して見ることができるようになった。

○保育者が膝の上で読むと、自然と絵本を中心に子ども達の集まる場所になることもあった。

○園で絵本を楽しむ子どもの姿を伝えることで、保護者と成長を共に喜ぶことができた。

絵本でつながる絵本貸し出しの取組

ねらい

○子どもが絵本を選び、週1回水曜日に絵本バックに入れて持ち帰ることを通して、家庭との連携を図る。

◆取組に至った経緯

絵本の良さを知っている保護者も多いが、「図書館に行けない。」「忙しい。」「絵本を買っても子どもは成長するので買った絵本に興味を示さなくなる。」「買うと経済的に大変。」等、絵本が身近なものになりにくい状況が見られた。

そこで、保育園に貸し出し絵本があれば、どの家庭でも子どもの年齢や興味のある絵本をいつでも手にすることができると考えた。

◆1回1冊返したら借りる

「1回1冊、返したら借りる」という簡単なルールで30年前から貸し出し絵本を始めた。長年、貸し出し絵本コーナーは毎日、親子で絵本を選ぶ帰りのお楽しみだったり、1、2冊読んで帰る親子のふれあいの場になっていた。新型コロナウイルス感染症が広がると、いろいろなイベントが中止になり、保育園も園の行事を中止にしたり、貸し出し絵本も中止にした。しかし、こんな時こそ絵本の力が必要、絵本でふれあう機会を作ろうと、消毒の方法や絵本の管理の方法を考え、週1回の貸し出し絵本を始めた。

◆絵本貸し出しの様子

どの年齢も始めは選ぶのに迷っていたが自分で選ぶことに慣れ、選ぶことを楽しむようになっていった。また、絵本バックに自分で入れる、お迎えの時に保護者に見せるなど、意欲的な姿が見られた。

【0歳児】



【1歳児】



【2歳児】



◆保護者アンケート結果

Q. 週1回の貸し出し絵本はどうでしたか？

- A. 何度も同じ絵本を持って帰った時は「これが好きなんだ」というのが分かって良かった。
- A. 自分で好きな絵本を選ぶのは良いと思った。帰ってからも絵本を嬉しそうに持っているの、「読んであげよう!」という気になった。
- A. 何より「自分で選んだ」という事と周りの子が選んだ本を見て、次は「あれにしたい」という刺激もあり、読むだけでなく「選ぶ楽しさ」という特別な感じがある。
- A. 週に1度の楽しみになっている。

国語辞典の仕組みや使い方を知り、 身近な言葉を調べよう

小学3年 国語
「国語辞典の使い方」
利用指導

ねらい

○国語辞典はどんな時に使うのか、どんな仕組みになっているのか知る。

○国語辞典のひき方を知り、実際に活用することができる。

学 習 展 開

- ① 国語辞典はどんな時に使うのか、どんな仕組みになっているのか、パワーポイントで作成したスライドショーでプレゼンテーションを行い、電子黒板に投影して紹介し興味づける。



- ② 国語辞典のひき方「つめ」「はしら」を見て調べることを知らせる。
- ③ 50音順であることや濁音・半濁音・長音・拗音・撥音などの掲載順について知らせる。
- ④ クイズ形式で、実際に辞典をひき、身近な言葉を調べる体験をさせる。
- ⑤ 言葉の意味や言い切りの形について押さえ、さらに国語科や総合的な学習の時間、理科・社会科などの授業で活用するよう促す。
- ⑥ 学習のまとめと振り返りをする。

◆司書教諭と学校司書の関わり

- 学校司書は、教室に児童と担任の先生分の国語辞典を配架できるよう準備する。
- 司書教諭は、児童用にプレゼンテーションを行うスライドショーを作成し、学級担任・学校司書と授業について打ち合わせをする。
- 司書教諭は、児童用ワークシートの用意をする。
- 司書教諭と学校司書は、国語辞典のひき方について困っている児童にアドバイスする。

★指導のポイント

- ◆ 授業の中でいつでも活用していけるよう、教室の手に取れる位置へ配架し、年間通して国語辞典を貸し出す。
- ◆ 国語辞典の必要性・仕組み・活用について、児童の実態に合わせて楽しく学べるように配慮する。

色々な国や地域の物語を読んで、紹介しよう

小学3年 国語

「世界の物語を紹介しよう」
資料の活用・読書指導

ねらい

- 「はりねずみと金貨」の物語で、あらすじのまとめ方を学習する。
- 読書郵便で、友だちに自分で選んだ本のおもしろさを紹介する。

学 習 展 開

- ① 世界地図で色々な国の位置や物語を確認して、読み聞かせやブックトークを聞き、興味をもつ。学習の見通しをもち、自分の学習課題をきめる。
- ② 「はりねずみと金貨」の物語で起こった出来事を場面ごとにまとめる。
- ③ 「はりねずみと金貨」の物語のおもしろさを伝える紹介文を書く。
- ④ 「はりねずみと金貨」で学んだあらすじのまとめ方をもとに、自分のおすすめの物語のあらすじをまとめて、読書郵便で友だちに紹介する。
- ⑤ 学習のまとめと振り返りをする。

◆司書教諭と学校司書の関わり

- 学校司書は、学校図書館に世界地図とお話の付箋を用意する。教室に児童分の物語を準備する。
- 司書教諭は、児童に紹介する国と物語を確認し、学級担任・学校司書と授業について打ち合わせをする。
- 司書教諭は、児童用ワークシートの用意をする。
- 司書教諭と学校司書は、継続的に授業に関わり、あらすじのまとめ方について困っている児童にアドバイスする。

学校図書館での導入



選んだ本を読む

★指導のポイント

- ◆ いつでも手に取って読めるよう、本を学級に貸し出す。
- ◆ 児童の実態に合わせて楽しく学べるように、読み聞かせやブックトークを行う。

資料

「三年峠」「へらない稲たば」（朝鮮）、「ふしぎなしろねずみ」「とらとほしがき」（韓国）、「銀のうでわ」「ほしになったりゅうのきば」（中国）、「星をもったひめ」（セルビア）、「はしれかぼちゃ」（ポルトガル）、「かもさんおとおり」（アメリカ）、「小さい魔女」（ドイツ）、「はなのすきなうし」（スペイン）、「ランパンパン」（インド）、「てぶくろ」（ウクライナ）、「きりのなかのはりねずみ」「金の魚」「マーシャとくま」（ロシア）

あそびかたをしょうかいしよう！

小学2年 国語

「おにごっこ」

資料の活用・読書指導

ねらい

- 読書を楽しみ、いろいろな本があることを知ることができる。
- 文章を読んで感じたことやわかったことを共有することができる。
- 文章の中の重要な語や文を考えて選びだすことができる。

学 習 展 開

- ① 学習の見通しをもつ。
- ② 説明のしかたを確かめながら説明文「おにごっこ」を読む。
- ③ 「しらべるときにつかおう 本でのしらべ方」を読み、知りたいことを確かめて読むこと、分かったことをメモすること等、調べる際の手順を確認する。
- ④ おにごっこやほかの遊びについて本を読んで調べ、グループごとに説明する準備をする。
- ⑤ 調べたことをグループごとに発表する。
- ⑥ 学習を振り返る。
- ⑦ 昼休み等の時間を使って、グループごとに発表した遊び方で遊ぶ。



学校司書と担任による本の紹介

◆司書教諭と学校司書の関わり

- あそび方について書いてある資料を準備する。
- 学習の成果物を展示する。
- 発表会に参加して感想を述べる。
- おにごっこに関係する絵本を読み聞かせする。

★指導のポイント

- ◆ 図書の資料が少ない場合は、タブレットで写真を撮って共有する。
- ◆ ブックリストを残しておく。

資料

- ・世界の子どもの遊び
- ・みんなであそぼう
- ・運動場のあそび
- ・スクール鬼ごっこ
- ・鬼ごっこはスポーツだ

地域の施設を活用しよう

小学校 6年 国語

「地域の施設を活用しよう」
情報活用能力の育成

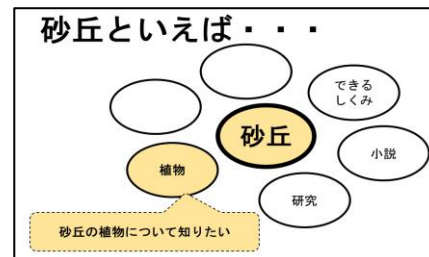
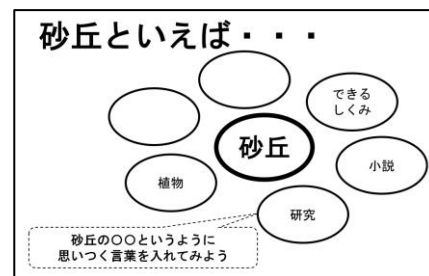
ねらい

○読書生活に関わる地域の施設に関心をもつとともに、目的に応じて進んでそれらを活用しようとすることができる。

学 習 展 開

- ① 読書や情報を得るための施設について、地域にはどのような施設があるか知る。
- ② 知りたいことをはっきりさせることが、目的を持って施設を活用することにつながることを知る。(課題の設定：太陽チャートの活用)
- ③ 目的に応じて活用できる施設が異なることを知る。(施設の利用案内、ホームページの活用)
- ④ 身近な施設(地域の図書館)についての動画を視聴し、施設の活用に向けて関心が高まるようにする。

課題設定のワークシート



◆司書教諭と学校司書の関わり

- 司書教諭は学習の流れに沿ったプレゼンテーションスライドを作成する。
- 学校司書(または司書教諭)は、地域の施設の利用案内を準備する。(児童へ配布)
- 担任は②の課題の設定の場面で、知りたいことがなかなか決められない児童にアドバイスをする。

★指導のポイント

- ◆ 課題設定の場面では、ワークシートの配布を行ったが、課題設定のワークシートの配布や記入作業をタブレットで行うのもよい。
- ◆ 課題の設定場面を設けることで、目的を持って地域の施設を活用することにつながる。

資料

- ・地域の施設の利用案内(県立博物館、県立図書館など)
- ・各施設のホームページ

課題の探究 レポートを書こう

中学3年 社会
「持続可能な社会を目指して」

ねらい

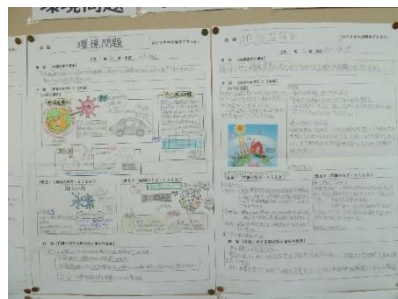
○「持続可能な社会」の形成者として自分たちにできることを考えることができる。

学 習 展 開

- ① 本時のめあてを確認する。
- ② スライドでくもの巣チャートを映して、SDGsの17項目について振り返る。
- ③ 担任によるまとめ方についての説明を聞く。
- ④ 学校司書による参考図書の紹介を聞く。
- ⑤ グループごとにテーマを調べて、まとめる。



SDGs 関連本の展示



学習成果物



学習の様子

◆司書教諭と学校司書の関わり

- 学校司書はSDGsについての17項目が一目で分かるシートを準備する。
- 学校司書は、事前に担任からテーマを聞き、関連図書を準備しておく。
- 学校司書は、調べる活動をT2として支援する。

★指導のポイント

- ◆ 参考図書は、テーマ別に分かりやすいようにしておく。
- ◆ 資料はより新しいものになるよう、町立図書館から借り受けたりする。

資料

- ・SDGsのきほん 未来のための17の目標
- ・世界がぐっと近くなる SDGsとぼくらをつなぐ本
- ・SDGsキャラクター図鑑等

情報読書スキルトレーニング ～さまざまな読書スキルを身につける～

高等学校 1 学年

現代の国語

「伝えること、受け止めること」

ねらい

- 「あらまし読み」を通して、捜読 Scanning・掬読 Skimming・限読 Timed Reading・要約 Summarizing といった情報収集のための読書スキルを体感する。
- 「書く・話す・聞く」という作業を入れ込み、内容理解を深めるとともに、読書が苦手な生徒にも取り組みやすくする。
- ジャパンナレッジ for school 内「岩波ジュニア新書セレクト 100」を活用し、さらなる読書の世界へ繋げる。

学 習 展 開

- ① ジャパンナレッジ for school「岩波ジュニア新書セレクト 100」より 40 冊の新書を抜粋し、紙媒体の新書を一人 1 冊配布。
 - ② 【新書の情報の概括】「奥付」を見て書誌事項を、「書名／著者名」を見て生徒がタイトルのテーマや著者について知っていることを、それぞれワークシートに記入。
【→対話タイム】
 - ③ 【序章読み】新書の序章だけを読み、内容を 3 行／3 文でワークシートに記入。【→対話タイム】
 - ④ 【興味読み】目次を見て、最も読みたい見出しを選び、ワークシートに転記。1 章の中の 1 節だけでも可。
 - ⑤ 選んだ章（節）を読み、ワークシートに整理マップを記入。【→対話タイム】
 - ⑥ 【まとめ】①～③の記述を読み返し、読んだ新書について「わかったこと」「もっと知りたいこと」「自分の意見・感想」を、それぞれ 1 文以上でワークシートにまとめる。
 - ⑦ 授業内で読めなかった箇所および他の新書について、ジャパンナレッジを活用しての読書を促す。
- ◆二人一組の「対話タイム」では、自分の記述した内容を〈口頭で伝え〉、もう一方が聞いた内容を〈オウム返し backtracking〉する作業を交互に行う。

授業の様子（「対話タイム」）



授業で使ったワークシート
（生徒記入例）

◆司書教諭と学校司書の関わり

- 司書教諭はガイダンス等で新書についての情報を示す。
- 学校司書は担当教員の抜粋した新書を準備し、生徒の活動を支援する。

★指導のポイント

- ◆通読ではなく、「要点をすくう」「記録を残す」「内容を話す／聴く」といった作業に集中することで、情報を俯瞰するスキルの重要性を示す。
- ◆評価はワークシート単独では行わず、活動全体の様子を確認する。

資料

- ・ 岩波ジュニア新書 40 冊
- ・ あらまし読み推進会（2021）『『あらまし読み』〈探究〉の入口となる新・読書術』
<https://www.aramashi.online/>

「優れたリーダー」について伝記を書いて英語で発表しよう

高校1年生
英語コミュニケーションⅠ
資料の活用（表現活動）

ねらい

- 生徒が選んだ人物の経歴や偉業、「リーダーとしての資質」について、伝記や人物事典などの図書館資料を活用して調べる。
- 調べた内容を整理して、英語で発表する。

学 習 展 開

- ①担当教員がデジタル教科書のプレゼン例（動画）を提示し、生徒は作成する原稿の構成などを確認する（館内のプロジェクター、大型スクリーン等を活用）。
- ②学校司書が情報の集め方などについて説明する。
- ③生徒は、1時間目は一人一冊本を選んで読み、2時間目は補足として Chromebook 等を活用しながら調べ、英語または日本語で情報をワークシートに書き出す。
- ④集めた情報をもとに英語で伝記を書き、クラスで発表する。その後、自己評価シートで「リーダーとしての資質」がプレゼンに含まれていたかどうか確認する。
- ⑤最後に「これからの社会で求められるリーダーの資質とは何か」について、本課の学習全体を通して発見したことや考えたことを英語で書き、クラスで発表する。



デジタル教科書のプレゼン例（動画）を提示



伝記や人物事典などの本と Chromebook を併用

◆司書教諭・学校司書との関わり

- 授業で活用する資料と利用の説明等について、教科担当教員、司書教諭、学校司書で話し合う。
- 学校司書は教科担当教員と連携して、生徒に必要な資料を手配し、ICT環境を準備する。
- 学校司書は授業に T.T. で参加し、生徒に対して情報の集め方について説明を行う。生徒が資料を探す際には、レファレンスで支援を行う。

★指導のポイント

- ◆ 活用する資料は、学校図書館だけでなく県立図書館からも借り、1時間目は一人一冊本で調べるようにした。2時間目は補足として Chromebook で調べ、情報を整理してまとめるよう指導した。
- ◆ 教科書で扱ったプレゼンの原稿や構成を参考に、英文を作成し、最後に自分の考えを英語で表現するよう指導した。

資料

- 東京書籍（教科書）『ENRICH LEARNING ENGLISH COMMUNICATION I』
「Unit 6 “What are the qualities of a good leader?”」
- 優れたリーダーシップを持つ人物に関する資料（自校図書館約 50 冊、県立図書館約 120 冊）
例）伝記『時代を切り開いた世界の人物』シリーズ 人物事典『ポプラディアプラス人物事典』

「恐竜の再生」についての探究プロジェクト ～グループによる英語プレゼンテーション～

高等学校 1年
英語コミュニケーションⅠ
Lesson 6
“Could We Have a Real Jurassic Park?”

ねらい

- 「恐竜の再生」から派生するリサーチクエストについて、様々な情報・研究結果・参考資料等を総合的に考察して、答えを導き出す。
- グループによるプレゼンテーションの活動で、スライドを用いて Delivery（伝え方：Eye Contact 等）を意識しながら、伝える。
- 聞き手は、即興的にプレゼンテーションについて英語で質問する。

学 習 展 開

- ① 生徒は、「恐竜の再生」から派生するリサーチクエストを考え、担当教員が集約する。
- ② 生徒は、集約されたリサーチクエストから希望するテーマを選び、担当教員がグループを編成する。
- ③ 生徒は、司書から、資料の探し方や参考文献の記録の仕方についてガイダンスを受ける。
- ④ 生徒は、図書館で様々な資料等を総合的に分析・考察し、Google Slide とスクリプトを作成する。
- ⑤ 生徒は、図書館で、Chromebook を用いて2グループごとに相互に英語でプレゼンテーションを行い、聞き手は質問をする。プレゼンテーション終了後、Google Form を用いて相互評価・自己評価を行う。

グループ活動の様子



プレゼンテーションの様子



取り寄せた資料の一部



◆司書教諭と学校司書の関わり

- 学校司書は、担当教員と内容・時間数等を事前に相談し、各テーマに必要な資料を準備する。
- 学校司書は、資料の探し方や参考文献の書き方などについてガイダンスを実施する。
- 学校司書は、教科担当教員とプレゼンテーションについて事前に打ち合わせを行い、設営や進行を補助し、記録を取る。
- 学校司書は、T2 (T3) として、グループごとのリサーチ活動を支援する。

★指導のポイント

- ◆ 生徒たち自身で考えたリサーチクエストについて、様々な資料を参考にし、正しい答えではなく、論理的に説得力のある内容をわかりやすく伝えるよう指導する。
- ◆ スライド作成は、キーワードのみを提示し、発表時に詳細を加えるように指導する。
- ◆ 参考文献はその都度記録し、スライドの最終ページに表記するよう指導する。

資料

『絶滅動物は甦らせるべきか?』（ブリット・レイ/著、双葉社、2020）、『恐竜再生』（ジャック・ホーナー/著、日経ナショナルジオグラフィック社、2010）、『恐竜の教科書』（ダレン・ナイシュほか/著、創元社、2019）など関連図書約 100 冊を県立図書館から借受。

『後醍醐天皇綸旨』を解説する ～中世の政治権力の特徴にせまる～

高等学校 2年 日本史B
「中世社会の展開：
建武政権の成立」

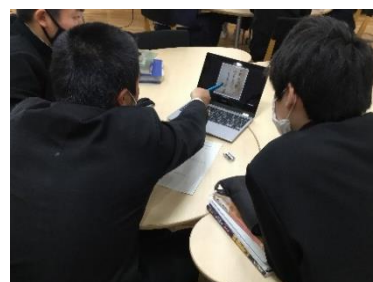
ねらい

- 郷土資料の原本画像資料を実際に解説し、郷土の歴史をより身近に感じ親しむ。
- 中世国家と社会や文化の特色について、歴史資料を含む諸資料を活用して、歴史の展開における諸事象の意味や意義を解釈させる。

学 習 展 開

【1時間目/全2時間】

- ① 資料に付帯する情報を確認する。(5分)
 - ・元弘の変から後醍醐天皇の隠岐脱出、京都帰還への動きを、概略的に把握する。
- ② 相見家文書『後醍醐天皇綸旨』の画像から、文を解説する。(20分)
 - ・2～3人でグループを組成・ワークシートを配布。
 - ・原本画像資料をChromebookに表示し、グループで読み解く。
- ③ 読み下し文から、大意を把握する。(7分)
 - ・解説した資料文を、現代の言葉で意識する。
- ④ 資料のもつ特質から、後醍醐天皇の意図を推測する。(10分)
- ⑤ 本時のまとめ(3分)



授業の様子

【2時間目/全2時間】

綸旨の意味を武士側に立って考え、政権の特徴をつかむ。

◆司書教諭と学校司書の関わり

- 学校司書は、教科担当教員と事前に打ち合わせを行い、機器の設定や準備を行う。
- 学校司書は、生徒の活動に必要な資料を準備する。
- 学校司書は、T2として、活動に必要なICT機器の準備や設営を行い、進行を補助する。

★指導のポイント

- ◆ Chromebookを用いることで、資料解説時に文字の拡大ができるなど、大きな利点がある。
- ◆ この文書を発出した天皇の意図と、受領した武士の反応を想像することを通して、建武政権の特徴についての気づきを促す。

資料

- ・鳥取県立公文書館作成『新鳥取県史を活用したデジタル郷土学習教材』「後醍醐天皇と船上山合戦」(<https://www.pref.tottori.lg.jp/secure/1251968/c6111.pdf>)
- ・『くずし字解説辞典』(児玉幸多/編、東京堂出版、1999)などくずし字に関する資料

南アメリカの国を紹介する ～グループで英語プレゼンテーション～

高等学校 2年
英語表現Ⅱ 資料の活用
「パフォーマンステスト」

ねらい

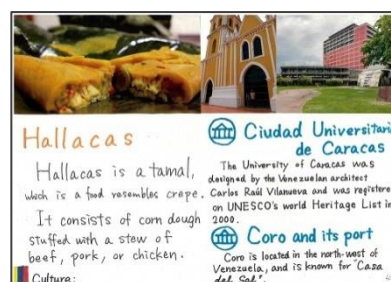
- 普段知る機会の少ない地域・国についてグループで研究し、異文化への関心と理解を深める
- スライドを効果的に用いて、聞き手に伝わる英語で表現することができる

学 習 展 開

- ① 担当教員が学習のねらいや授業の計画について説明する。司書が資料の探し方や ICT 機器の利用についてガイダンスを行う。
- ② 南アメリカの 8～9 の国を、各グループ（5 人程度）に割り振り、図書館資料や ICT 機器を活用して研究を行う。
- ③ 生徒は研究した情報を整理・分析し、スライドとスクリプトを作成する。
- ④ 教室でプレゼンテーション発表をする。作成したスライドをプロジェクターで投影して英語で発表する。生徒・教員はルーブリック評価表を用いてフィードバックする。



グループでのリサーチ活動のようす



作成したスライド（例）

◆司書教諭と学校司書の関わり

- 学校司書は、教科担当教員と事前に打ち合わせを行い、テーマに関する資料を準備する。
- 学校司書は、T2（T3）として、生徒に資料の探し方や ICT 機器の操作方法を教えたり、個々のレファレンスに対応して、リサーチ活動を支援する。
- 学校司書は、筆記用具等スライドとスクリプト作成に必要な物品の準備をする。

★指導のポイント

- ◆ 自分たちが関心を持った情報について、聞き手も興味を持ってもらえるよう工夫して発表するよう指導する。
- ◆ 内容を精査し、スライドではキーワードのみ提示し、詳細は口頭で伝えられるよう指導する。
- ◆ その都度参考文献を記録し、スライドに明記するよう習慣づける。

資料

『ポプラディアプラス世界の国々』シリーズ（ポプラ社）、『地球の歩き方』シリーズ（ダイヤモンド・ビッグ社）、『すべてがわかる世界遺産大事典』上、下（マイナビ）など、南アメリカ各国の地理・風俗・観光名所等についての資料を提供。

英語で書かれた本を読んでみよう

高等学校 2年 英語
「英語表現Ⅱ」
資料の活用

ねらい

○英語を(訳すことなく)英語のまま理解し、読むことの楽しさを味わうことで、生涯にわたり英語を学習するための意欲を養う。

学 習 展 開

- ① 教科担当教員が授業の目的と流れ、ワークシートの書き方等の説明をする。
- ② 学校司書は資料の種類や特徴について説明し、選定のための支援を行う。また、書誌事項の記録の仕方について説明する。
- ③ 生徒は自分の興味関心やレベルに応じて資料を選ぶ。
- ④ 選んだ本を読む。(資料の選び直しは適宜可能)
- ⑤ 生徒はワークシートに書誌事項や要点を記入し、提出する。



本を選ぶ(感染症対策のため、1列で順番に)



選んだ本を読み進める

◆司書教諭と学校司書の関わり

- 学校司書は教員と授業の流れとねらいを確認して、生徒が使用する資料とガイダンスの準備を行う。
- 司書教諭は教科担当教員や司書と授業の流れについて確認し、助言を行う。
- 学校司書は生徒の活動を T2 として支援する。

★指導のポイント

- ◆ 生徒の興味関心や英語の読解力レベルに対応できるよう、資料の準備を行う。
- ◆ 英語を(日本語に訳すのではなく)「英語として」理解する感覚を味わうため、辞書の使用は最低限にとどめる。

資料

PENGUIN READERS(Pearson Education Limited)、OXFORD BOOKWORMS LIBRARY(OXFORD UNIVERSITY PRESS)、ラダーシリーズ・IBC オーディオブックス・IBC 対訳ライブラリー(IBC パブリッシング)、ディズニーの英語シリーズ(KADOKAWA)

調べよう！伝えよう！「身近なモノの歴史」

高等学校 2年
世界史A
目次・奥付を使って調べる

ねらい

- 本の目次・奥付を活用して、必要な情報を探し出し、記録することができる。
- 集めた情報を整理し、一枚のシートに「○○の歴史」というタイトルでまとめることができる。

学 習 展 開

- ①一人一冊本を選ぶ。
- ②目次・奥付の使い方の演習をする（学校司書）。
- ③調査シートの各項目の情報を探し、記入する。
（起源・発祥、歴史、現在の様子、トリビアなど）。
- ④集めた情報、特に「歴史」の部分に着目し、発表シート（ポスター）のサブタイトルを考える。
- ⑤発表シートを作成する。図や絵、色、レイアウトなど、人に伝わりやすくなるよう表現を工夫する。
- ⑥4人グループに分かれ、グループ内で一人ずつ発表する。発表後はグループ内で感想やコメントを伝えあう。
- ⑦学習や発表の感想をふりかえりシートに記入する。



◆司書教諭と学校司書の関わり

- 司書教諭が職員研修会を計画し、本の目次・奥付を使った「調べ方の演習」を教職員間で情報共有。
- 司書教諭、学校司書、担当教諭が連携して「調べ方の演習」を計画し、ワークシートを作成。
- 学校司書が担当教諭と連携し、調べる本を収集。授業にT.Tで入り、演習やガイダンスを実施。
- 学校司書は担当教諭と相談しながら、生徒ヘレファレンス対応。完成作品を図書館で展示した。

★指導のポイント

- ◆ 本は、一つの「モノ」をテーマにし、内容にその「モノ」の歴史を含んだものを用意する。
- ◆ 前年度の作品をプロジェクターで投影し、サブタイトルのつけ方や、発表シート作成の参考にさせる。
- ◆ 発表全体のテーマになるようなサブタイトルをつけるよう指導する。

資料

『世界の発明発見歴史百科』テリー・ブレヴァートン/著（原書房）、『身近なものはじまり』シリーズ（PHP研究所）、『お菓子の図書館』シリーズ（原書房）、『おにぎりの文化史』横浜市歴史博物館／監修（河出書房新書）他、県立図書館から約60冊借受

絵本に親しもう！

高等学校 2年
子どもの発達と保育
「子どもの遊び」

ねらい

- 様々な絵本を紹介する中で、読み聞かせに向いている本・難しい絵本を考える。
- 読み聞かせのための絵本の持ち方、ページのめくり方を体験する。

学 習 展 開

【1時間目】

- ① 担当教員がこの単元のねらいを説明。
- ② 司書が様々な種類の絵本の現物を紹介。
- ③ 司書の読み聞かせの実演「ふしぎなナイフ」
- ④ 教員と司書の読み聞かせの実演「これはのみのぴこ」
- ⑤ 生徒に様々な種類の絵本を手にとってもらう。

【2時間目】

- ⑥ 司書がどのようなシーンで絵本を読むか紹介。
- ⑦ 司書と教員で読み聞かせのプリント穴埋めをし、読み聞かせのポイントを学ぶ。
- ⑧ 司書が読み聞かせの実演「おおきなかぶ」
- ⑨ 生徒が絵本を持ってページをめくる練習を行う。（※コロナ対応で声に出さずめくるのみ）
- ⑩ 教員によるまとめ。



家庭科教諭と司書による読み聞かせ実演

★指導のポイント

- ◆ 読み聞かせの場面で、離れた場所から見て絵の見やすさ・話の伝わりやすさの違いを体験。
- ◆ 奥付を参考に、何年に発行の絵本であるか確認。ロングセラーの絵本を知る。
- ◆ 知識の絵本として「びっくりまつぼっくり」の絵本を紹介。また、まつぼっくりをコップの水につけて、授業最後に変化を観察。
- ◆ 鳥取市子どもの読書活動推進委員会作成のおすすめ絵本 QR コードを紹介。

◆司書教諭と 学校司書の関わり

- 司書教諭は授業の記録等を行う。
- 学校司書は、担当教員と事前の打ち合わせを行い、資料を用意した。
- 学校司書は、T2として読み聞かせの実演を行った。

資料

昔話絵本、創作絵本、写真絵本、知識の絵本、赤ちゃん絵本、わらべ歌絵本、言葉遊び絵本、布絵本、しかけ絵本、大人向けの絵本、点字絵本、外国語の絵本、超大型絵本、雑誌「MOE」、県立図書館おすすめ絵本リスト、鳥取市おすすめ絵本 QR コード

特定外来生物について調べよう

～資料の活用、情報の精選を行い、オリジナルのカードを作成する～

高等学校 3年
理科 「地球環境」
(学校設定科目)
資料の活用

ねらい

- 自分が興味・関心を持った特定外来生物について、資料を活用して調べ、適切にまとめることができる。
- 作成したカードについての発表を行い、発表態度を養う。

学習展開

- ①担当教諭が、授業の流れとまとめ方について説明する。
- ②生徒が興味・関心を持った特定外来生物を1つ選び、図書の資料や iPad を活用して授業プリントに調べた情報をまとめる。
- ③調べた情報を精選して、誰でも分かりやすく親しみやすいようなカードを作成する。
- ④カードの作成時に意識した点を授業プリントに書き出す。
- ⑤カードについての要点と作成時に意識した点を、全員が発表する。
- ⑥他生徒の発表を聞き、気づいた点を授業プリントに書き出し、渡し合うことで相互評価する。



◆司書教諭と学校司書の関わり

- 司書教諭、学校司書、担当教諭は授業のねらいを確認し、まとめ方について協議した上で、担当教諭が授業プリントを作成する。
- 学校司書は、担当教諭と相談して、学習の段階に応じた資料を収集する。
- 学校司書は、完成した作品を図書館内で展示する。

★指導のポイント

- ◆ 野外で特定外来生物と遭遇したことを想定し、必要な情報を精選するよう指導する。
- ◆ 子どもから大人まで誰でも分かりやすく親しみやすいカード作りを意識させる。
- ◆ 発表の際は、挨拶から発表中の態度まで細かく指導し、発表態度を身につけさせる。

資料

『最新日本の外来生物』自然環境研究センター/編著（平凡社）、『外来生物のひみつ』今泉/監修（PHP 研究所）、『外来生物はなぜこわい？』シリーズ 阿部浩志/著（ミネルヴァ書房）、『危険 SOS！外来生物図鑑』加藤英明/著（世界文化社） 他

レポートの作成

～資料の活用と引用方法を身に付けよう～

高等学校 3年

発展国語総合「レポート作成」

利用指導、資料の活用

ねらい

- 進路・興味に関係する物事について深く探求する。
- 他者の意見を参照し客観性・根拠をもって、自分の考えを表現する。
- 資料の検索・活用、正しい引用の仕方を身に付ける。

学 習 展 開

①レポートの書き方を解説する。レポートの書き方を説明した書籍、大学が学生向けに提示している書き方、規定を参照したパワーポイントを見せながら解説。そこにも参考資料からの引用を用い、引用・脚注のつけかたを例示する。

②レポートのテーマを決定する。生徒が進路や興味のある事について、疑問をたてる（「なぜ」「どのように」など）。疑問をきっかけに、それを明らかにするという目的をもって資料探しをするよう指示。

③図書館で資料を探す。テーマによっては書籍がないため、インターネットを利用。

④序論・本論・まとめ・脚注の構成でレポートを作成。

◆レポートのテーマ例

- ・商品パッケージのリニューアルにはどのような効果があるか。
- ・むし歯に対するアプローチの仕方はどのように変化したか。
- ・水族館の魚は幸せか。
- ・外国人が日本の観光地に求めるものは何か。
- ・子どもの筋トレは成長の阻害となるのか。
- ・英語の仮定法は、主語が「I」なのになぜ「were」を使うのか。

◆司書教諭と学校司書の関わり

- 学校司書は、生徒が県立図書館のホームページで検索した資料を準備。さらに、関連する資料をピックアップし、追加で取り寄せて生徒に提供。その他、図書館内での資料探し等、個別の相談に対応する。
- 司書教諭は、インターネットでの検索や、図書館内での資料探しの補助を行う。

★指導のポイント

- ◆ 生徒が興味を持つテーマは多岐にわたり、ピンポイントなものも多いため、早めに調査。目的に合致する本が学校図書館にない場合、県立図書館のホームページで検索して資料を探す。また、選定時、NDC分類表から希望分野を絞り込む形にし、図書館ではその分類番号を目印に探すよう指導。

資料

【書き方説明の資料】井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法』（慶應義塾大学出版会）、川崎昌平『大学1年生の君が、はじめてレポートを書くまで。』（ミネルヴァ書房）、大学が公開しているレポートの書き方（立命館大学、東京国際大学など）

詩に親しもう！ ～マルチメディア DAISY 図書を活用して～

知的障がい
中学部 課題学習
マルチメディア DAISY 図書の活用

※マルチメディア DAISY とは、音声と画像を同時に再生できるデジタル録音図書です。

ねらい

- 詩の内容を理解し、言葉からイメージを共有したり広げたりする。
- 詩の世界観を楽しむ。

学 習 展 開 (詩の学習)

4つの“ミッション”という形で学習内容を構成する。
ミッション①タイトルを隠しておき、あてはまる言葉を予想する。【理解し、イメージの共有をする】

→DAISYの音声のみを聞き答えを知らせる。

ミッション②なんにもしたくないとき、あなたならどうしますか。【イメージを膨らませる・共感する】

ミッション③この詩の最後に2行文章がかくれています。さて、ふじんはめしつかいになんと言ったでしょう。【流れを理解し、予想を立てる】

→予想を立てたあと、DAISYを視聴する。

ミッション④めしつかいの返事を考えよう【イメージを膨らませ、詩の世界観を楽しむ】

(詩全文) 谷川俊太郎『そして』より
「はくしゃくふじん」 全文

なんにもしたくない
いようとおもつて
おかねもちの
はくしゃくふじんは
めしつかいを
よんだ
なんにもかまへが
やっておくれ
といつて
はくしゃくふじんは
いすにすわつたが
いすにすわれば
いすにすわつて
なんにもしたくない
ことには
ならなかつた
たちあがると
はくしゃくふじんは
たつていた
よこになると
よこになつて
いた
ぼんやりすると
ぼんやりして
いた
なんにもしたくない
のが
とてもむずかしい
ので
めしつかいをよんで
ふじんはいつた
なんにもしたくない
から
かながえておくれ



学習の様子

★指導のポイント

- ①4つの“ミッション”という形で学習内容を構成する。
- ②イメージを共有したり、広げたりすることにつながるようにイラストを入れる。
- ③視覚的支援として、スライドと、板書、ワークシートを用いる。
- ④ミッションの中にDAISYを「聞く」ことでわかる問い、「目で追い、耳で聞く」ことでわかる問いを入れる。

◆司書教諭と学校司書の関わり

- 司書教諭は、単元の学習開始前に、学校司書に内容を伝えて選書の相談をする。
- 学習の最後に、司書による詩の朗読と詩集の紹介を行った。朗読では情景の感じられる同じ作者の『あさ／朝』『ゆう／夕』の詩集から一部抜粋し紹介した。

資料

- ・谷川俊太郎自選詩集『そして』谷川俊太郎／作 2016／4 銀の鈴社
- ・谷川俊太郎自選詩集『そして』谷川俊太郎／作 2016／4 伊藤忠記念財団／製作
- ・『あさ／朝』谷川俊太郎／作 2004／7 アリス書房
- ・『ゆう／夕』谷川俊太郎／作 2004／11 アリス書房

お気に入りの絵本を紹介しよう

知的障がい 中学部3年
国語「お気に入りの絵本を紹介しよう」
資料の活用・読書指導

ねらい

○紹介したい本を友だちに伝えることができる。

○選んだ絵本のお気に入りの場面を伝えることができる。

学習展開

- ① 季節の絵本を紹介し、読み聞かせをする。
- ② 気に入った絵本を選定する。
- ③ 本を選んだ理由、気に入った場面を考え、ワークシートに書く。
- ④ 紹介したい絵本をわかりやすく伝えるために、発表前に伝える内容や発表の仕方を確認する。
- ⑤ 紹介したい絵本を友だちに伝える。



気に入った場面をワークシートに記入する生徒

お気に入りの絵本をしょうかいしよう！ ほんのなまえ	
えらんだ りゆう	
が、よかった。	
お気に入りの場面	
が、	
ところです。	
おもいしかった	たのしかった
うれしかった	こわかった
です。	
なまえ	



図書室前に掲示

◆司書教諭と学校司書の関わり

- 司書教諭は学校司書と相談し、生徒の実態に合った絵本を選定する。
- 司書教諭は担任と相談し、生徒の実態に応じたワークシートを作成する。
- 学校司書は紹介文を図書室前に掲示する。
- 学校司書は学習に合わせた図書の展示をする。

★指導のポイント

- ◆ 絵がはっきりしているもの、お話に馴染みのあるものを選書する。
- ◆ 読み聞かせのときに絵本が見やすいように、大型絵本が出されている種類を選書する。
- ◆ ワークシートを活用して発表内容をまとめる。
- ◆ 友だち同士で発表し合い、本に関心をもつ。

資料

「まめうしのびっくりなあき」(PHP 研究所)、「おいもをどうぞ」(ひかりのくに)、
「14ひきのかぼちゃ」(童心社)、「ぐりとぐらのおきゃくさま」(福音館書店)、「まどか
らのおくりもの」(偕成社)、「おしくらまんじゅう」(ブロンズ新社)

好きな俳句を選んで、歌にしよう

知的障がい 高校2年
選択音楽 資料の活用

「日本の音楽に親しもうⅡ～旋律づくり」

ねらい

- 言葉や音楽の構成に関心を持ち、それを活かして主体的に創作活動に取り組む。
- 普段読まないジャンルの本に触れ、日本語の面白さを発見する。

学 習 展 開

- ① 学校司書が用意した本から、好きな俳句・川柳を探して決める。
- ② 音符カードを並び変えながら、言葉のリズムを考える。
- ③ 日本語アクセント辞典を使って、作品に使われている言葉の抑揚を調べる。
- ④ 調べた抑揚をもとに、日本音階の5音を用いて音程をつけ、旋律を作る。
- ⑤ 前時までに考えてきた旋律を楽譜にする。
- ⑥ 楽譜を見ながら歌う練習をし、作品を発表し合う。



好きな俳句・川柳を選ぶ



日本語の抑揚を調べる

旋律づくりをしよう♪

音階の名称	構成音	代表曲	特徴	創作のルール
民謡音階	ド ソ ラ シ レ	かごめかごめ ソーラン節 等	あ、お	・ラから始める ・ソで終わる ・全部の音を使わないでいい
都府県音階	ド ソ ラ シ	うさぎ さくらさくら 等	こ、お、あ	・ラから始める
ヨア族音階	ド レ ミ ソ ラ	夕焼け小焼け 風の光 パプリカ 等	あ、お、こ、あ	・ラ以外のどれかから始める ・ドで終わる

五音の組み合わせは無限大です
ド ソ ラ シ レ ド ソ ラ シ レ ド ソ ラ シ レ

旋律づくりのワークシート

◆司書教諭と学校司書の関わり

- 学校司書、司書教諭、教科担当者で、どんな文学作品に旋律をつけるか等、授業内容を相談する。
- 学校司書は県立図書館のレファレンスサービスを利用し、生徒が興味をもちそうな俳句や川柳の作品集を用意する。
- 学校司書、司書教諭は日本語アクセント辞典を用意し、教科担当者と一緒に辞典の使い方を指導する。

★指導のポイント

- ◆文字の量や大きさ、写真・イラストの多さなど、生徒が読みやすい本を選書する。古典俳句だけでなく、笑ってしまうような面白い現代川柳も用意し、親しみを持たせる。
- ◆日本語アクセント辞典で言葉を探す際に一緒に発音をすることで、アクセント記号の見方を伝える。

資料

「わくわく子ども俳句スクール」全3巻 国土社、「俳句でみがこう言葉の力」全4巻学研プラス、「小学生のための俳句帖 みんなで楽しく五・七・五！」朝日小学生新聞社、「俳句わくわく5!!」岐阜新聞社、「子どもおもしろ歳時記」理論社、「新明解日本語アクセント辞典」三省堂 等

レッツ鳥取じまん ～名探偵コナンの巻～

知的障がい
中学部 生活単元学習
・資料の活用

ねらい

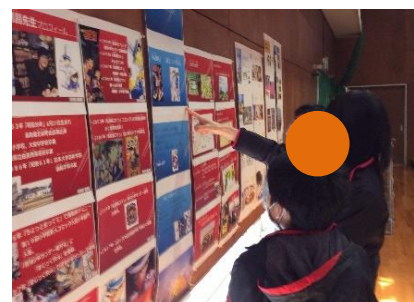
- 鳥取をPRする視点で「名探偵コナン」に関わる場所やイベント、関わる人たちの思いなど、実際に話を聞いたり調べたりしながら知ること、鳥取の魅力を感じる。
- 「名探偵コナン」について、自分が興味・関心をもったことを進んで調べたり、分かったことや感じたことを自分なりに工夫して伝えたりする。

学 習 展 開 （調べ学習グループ）

- ① 生徒たちに、「名探偵コナン」について興味のあることや知りたいことのアンケートをとり、学習グループの編成を行う。
(実験・インタビュー、調べ学習、グッズ作りの3グループ)
- ② 「青山剛昌ふるさと館」の見学メモや資料をもとに、調べる内容を決める。
- ③ 学校図書館資料やインターネットを活用して、「名探偵コナン」の漫画のはじまりや漫画に登場する料理、作者の出身地北栄町のことなどを詳しく調べる。
- ④ 写真や絵を貼って地図を作ったり、自分の言葉でまとめたりして、「名探偵コナン」に関するパワーポイント資料を作成する。
- ⑤ 校内の児童生徒や教師、保護者や関係者に、パワーポイント資料を用いながら発表したり、質問コーナーで答えたりしながら、「名探偵コナン」の魅力を伝える。



じまん展での発表の様子



質問に答える様子

◆司書教諭と学校司書の関わり

- 司書教諭は、単元の学習開始前に、学校司書に内容を伝えて資料の相談をする。
- 司書教諭は、資料の準備について関係する教師に周知する。
- 学校司書は、調べる活動をT3として支援する。その際、必要に応じて生徒が読みやすいリライト資料を作成したり、生徒の実態に合った資料を用意したりする。

★指導のポイント

- ◆ 目次や索引の見方の指導、資料の読み込みの支援（使いたい部分をコピーする、必要な情報にマーカーで線を引くなど）を行う。
- ◆ 成果物と一緒に、参考資料やリライト資料の展示をする。
- ◆ じまん展で、調べたことを発表したり、成果物を鳥取大学図書館や鳥取県立図書館に展示して地域へ魅力を伝えたりすることで、達成感を高める。

資料

(調べ学習
グループ)

- ・ 青山剛昌30周年本 青山剛昌／作 小学館 2017/10
- ・ わたしたちの北栄町 北栄町教育委員会 2020/03
- ・ 鳥取NOW 第11号と13号
- ・ 名探偵コナンに会えるまち鳥取県北栄町 コナン通り公式ガイドブック 2019/01

伯耆町の学校図書館支援

～伯耆町教育振興会「図書館部会」の充実～

特 徴

○町教育振興会の専門部会に「図書館部会」を設定し、町立図書館が学校図書館支援センターとしての役割を担うことで、町立図書館と学校図書館・保育所の相互連携を推進し、図書館経営、図書館教育の充実を図り、子ども達の一層の読書活動推進を目指している。

◆学校図書館の環境整備

- ・全校に学校司書の配置
- ・町内司書の共有のネットワークにより、学校間の本の貸借が可能。
- ・館内掲示等の工夫・充実、推薦図書などの特集コーナーの設置

◆研修・連絡会

◆図書館教育部会（伯耆町教育振興）の研修

- 就学前から中学校まで見通しをもった研修会の実施（保育所・小・中合同で開催）
- ・町立図書館が、「伯耆町共通図書館教育年計」を作成・提示
- ・上記データを町内の保・小・中で自由に閲覧、活用できるように仕組みを整備→活動内容をクリックすると指導案にリンク
- ・学校等で指導案をもとに授業後、実践記録を集約していくことで、実践記録集を作成し、今後の活用に活かしていく。
- ・町内保育所では「読み聞かせ年間計画」を作成、それに基づく実践記録を集中保管し、小・中を含め各施設で自由に閲覧、活用が可能。

○研修内容

- ・「伯耆町共通図書館教育年計」の活用の仕方
- ・調べ学習の実践、「情報カード」の書き方
- ・ビブリオバトルの実践 など

◆図書館司書研修

- 図書館司書の資質向上に向けて、年4回程度開催（小中合同）
- ・研修や情報交換等を行い、相互協力しながら町全体の読書活動を推進する。
- 研修内容
- ・ブックトーク研修。ブックトーク原稿を作成し、共有する。
- ・クロームブックの使い方研修 など

【研修の様子】

*情報カード



◆町立図書館との連携

◆本の搬送

Web 予約等で、依頼のあった本を毎週1回全小中学校、保育所、幼稚園へ定期巡回便として届けている。

◆朝読書、お話会の支援

月1回～4回（学校、保育所の実態に合わせて）、要請を受けた施設へ読み聞かせボランティアと協力しながら支援をしている。

◆大型絵本や布絵本、エプロンシアターの貸し出し

学校図書館で所蔵していない物を貸し出し、図書館教育活動の充実を支援している。

米子市の学校図書館支援

～年8回の学校図書館研修会を通して～

特 徴

- 本市では、毎年、年8回の学校図書館研修会を実施している。
そのうち1回は学校司書だけでなく、司書教諭と合同で研修会を行い、個々のスキルアップとともに図書館業務の統一を図っている。

◆市立図書館との連携

- ◆市の公用車で学校に図書を配本・回収
 - ・リクエスト貸出：授業、個人学習、読書用等の図書を週4回、公用車によるメール便にて配本回収
 - ・長期貸出：学期ごとの長期貸出の実施
- ◆市立図書館・司書教諭・学校司書との連携・協力
 - ・各研修会への参加ならびに協力
- ◆図書館見学・職場体験学習の受入
 - ・施設案内、本の探し方・調べ方、読み聞かせ、ストーリーテリングの実施
 - ・中学生の職場体験学習の受入
- ◆「ふるさと米子探検隊」の発行
 - ・地域について調べるためのブックレット
 - ・各小中学校の教室に配付



市のこども施設課情報担当による
I C T研修の様子

◆司書教諭と学校司書の合同研修

- ◆年7回の実施
 - 全体研修会5回
 - ・市立図書館および各学校のおすすめ書籍の紹介・展示
 - ・4部会による協議
(研修部・おたすけ手帳部・広報部・総務部の4部会)
 - ・県立図書館の学校図書館支援員による講話(著作権について)
 - ・市のこども施設課情報担当によるI C T研修
- 同規模校研修会1回
- 中学校区研修会1回
 - ・小中一貫教育の推進

◆学校司書研修会

- ◆年1回(8月)の実施
 - 県外講師による講義等
(令和4年度：帝京大学教授 鎌田和宏氏)
 - 演習
メディアの特性を考える図書館の利用指導について

町の枠を超えた「学校司書合同研修会」の実施

特 徴

郡部の町村では学校図書館で勤務する司書数が少なく、交流・研修する場を作ることが課題となっている。そこで、南部町立図書館と江府町立図書館が共同し、町の枠を超えた研修を企画した。発案した2町以外にも近隣の3町に案内し、研修会を行った。

◆研修実施までの流れ

- 南部町立図書館と江府町立図書館で研修の実施について検討（5月～6月）
内容や時期について、町内の学校図書館に聞き取りを実施
（役割分担 会場担当 南部町立図書館 文書等作成 江府町立図書館）
- それぞれの教育委員会に企画書を提出し、講師等を決定・依頼と案内文書発送（7月）
当初8月18日に実施予定だったが、新型コロナウイルス感染の拡大に伴い、延期を決定
- 再度日程を調整し、令和4年11月22日午後1時30分～午後4時30分に実施
参加者 15名 参加者所属町 南部町・江府町・伯耆町・日南町

◆研修の内容

- 南部町立西伯小学校図書館見学
他校の図書館を見る機会はあまりないため、見学会を内容に盛り込んだ。
- 講義「学校図書館と著作権」
講師：鳥取県立図書館支援協力課 岩崎武史氏
学校のなかで関わりのある著作権を中心に研修。
近年改正になったところやデジタルネイティブ時代の著作権などについて学ぶ。講義のあとは事例演習として、学校で想定される具体例をもとに、著作権にどう配慮するのか考える内容となった。
- 「とっとり学校図書館活用教育推進ビジョン」説明
講師：鳥取県立図書館支援協力課 橋中真紀子氏
令和4年3月に改訂になった経緯やビジョンのめざす方向、新しく追加となった項目内容などについて説明を受けた。
- 情報交流
小学校グループと中学校・公共グループに分かれて情報交流を行った。各グループとも活発に意見が交わされていた。

◆参加者の感想と今後

- 他の学校図書館を見学させてもらえる機会はあまりないので、勉強になった。
- 情報交換の時間がもっとあっても良かった。継続して開催できたら良いと思った。
- 他校の学校司書さんと話をすることがほとんどないので、いろいろな話が聞けて良かった。

参加者からは、今後もこうした交流の機会を求める感想が多かった。Google Classroomを活用した交流の機会などについても話題にあがった。今後については、案内や開催の準備等を同じ町が継続して行うことは負担になるので、複数の町村が連携し、持ち回りのような形で実施ができないか、検討を進めているところである。